

(様式 2)
議事録番号

提出 2023 年 12 月 21 日

会合議事録

研究会名：固液界面研究会

日 時：2023 年 9 月 26 日 10:00-12:00

場 所：大阪大学基礎工学研究科

出席者：(議事録記載者に下線) 原田慈久, 隅谷和嗣, 若林裕助 ほか
計 6 名

議題：放射光による固液界面研究の技術紹介と施設への期待

議事内容：

固液界面研究会は、設立以来ずっとコロナ対応でオンライン会議として開催してきた。今回が初の対面開催であった。

プログラムは以下の通りである。

10:00 東北大 若林 はじめに

10:05 東北大 若林 酸化物触媒に対する固液界面の表面回折実験

10:35 物性研 原田 ナノ水滴が作る界面現象

10:50～ 関連 BL 紹介

JASRI 高木 SPring-8 BL46XU における

硬 X 線光電子分光計測技術の進展

JASRI 隅谷 SPring-8 BL13XU の現状

11:20 頃～ 総合討論

若林からは次期研究会申請があるはずである点についてアナウンスした。回折に関する報告では、固液界面実験特有の実験上のトラブル事例について紹介した。原田氏からは最新の科学的な成果について報告があった。JASRI の高木・隅

谷岡氏からは固液界面研究に活用できるビームラインの技術報告があった。

参加人数は少なかったものの、「密度の高いプロの会話」が成立し、高いレベルの研究会であった。ただしやはり人数が少ない点、及びやや年齢層が高い点が問題であると意識が共有され、次回以降はなるべく若い人を呼び込めるようにしよう、と合意した。

総合討論では、以前 BL28 で実施できていた in-situ XAFS の実験ができなくなって困った、という報告があった。固液界面の実験では気泡が出るなど試料環境が安定しないために、白色 X 線を入れて同時に測れるのが重要であったが、その種の計測ができなくなったとのこと。結局、あちこち探して PF で実施することになったという事であった。

また、以前 27 番でできた軟 X 線溶液発光の測定ができなくなり、この種の測定ができる装置が国内から無くなってしまった、という報告があった。

特殊な実験については、国内の類似施設間で連絡を取るなどして分業でも継続できるようになっている事が望ましい。ユーザーが少ないと難しいかもしれないが、技術を絶やさない事は放射光計測技術の歴史の長い国に求められる事ではなかろうか。